

嗅覚

きゆう
かく

の おとろえは 重大です。



ニオイに鈍感になると
危険がいっぱいです。



嗅覚のおとろえには
多くの要因があります。

副鼻腔炎
(ちくのう症)

アレルギー性鼻炎
花粉症

感冒(かぜ)

頭部外傷

加齢

パーキンソン病
アルツハイマー病

嗅覚障害は早期発見・早期治療が大切です。

ニオイについてドクターからひとこと

ニオイとは…



三輪 高喜 先生

金沢医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授

嗅覚機能検査



飯嶋 瞳 先生

東京女子医科大学医学部 神経内科学 准教授

ニオイは私たちのまわりに常にあります。良い匂いは気持ちを楽しくさせ、嫌な臭いは気持ちを暗くさせます。でも、良い匂いであれ、嫌な臭いであれ、ニオイがない世界はとても寂しいものです。

ニオイがないと食べ物の味も変わってしまいます。また、私たちはニオイによって、食品の腐敗やガス漏れ、煙などを感知していますので、ニオイがわからないと危険に気づきにくくなります。ニオイは鼻の奥の嗅神経で感知されます。

ところが、蓄膿症やアレルギー性鼻炎などの鼻の病気になると、ニオイの感じ方は弱くなり、全くニオイを感じなくなることもあります。風邪をひいた後、いつまでもニオイを感じない状態が続く場合も、嗅神経の障害が疑われます。これらは一種の病気に含まれ、早期に適切な治療を行えば回復します。

ニオイを感じないことにお気づきの方は、お近くの耳鼻咽喉科またはかかりつけのお医者さんにご相談ください。健康な鼻で、いつまでも楽しくお過ごしください。

嗅覚障害は様々な神経変性疾患で認められます。特にアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症、またパーキンソン病では発症早期から嗅覚障害を呈するため、嗅覚機能評価は認知症の早期発見やパーキンソン病の鑑別に大きな役割を果たしています。

パーキンソニズムを呈する疾患には、パーキンソン病、レビー小体型認知症、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、血管性および薬剤性パーキンソン症候群などが挙げられます。パーキンソン病やレビー小体型認知症では他のパーキンソニズムを呈する疾患に比べ嗅覚機能低下が顕著に認められます。

嗅覚機能が低下している軽度認知機能障害の一部は、アルツハイマー型認知症に進展するとされます。また、認知症を発症していないパーキンソン病のうち、重度の嗅覚障害を認めた患者では将来、認知症を発症する危険が高いとされています。嗅覚検査は非侵襲的であり、神経変性疾患において早期診断、鑑別および認知症の予測に有用です。